

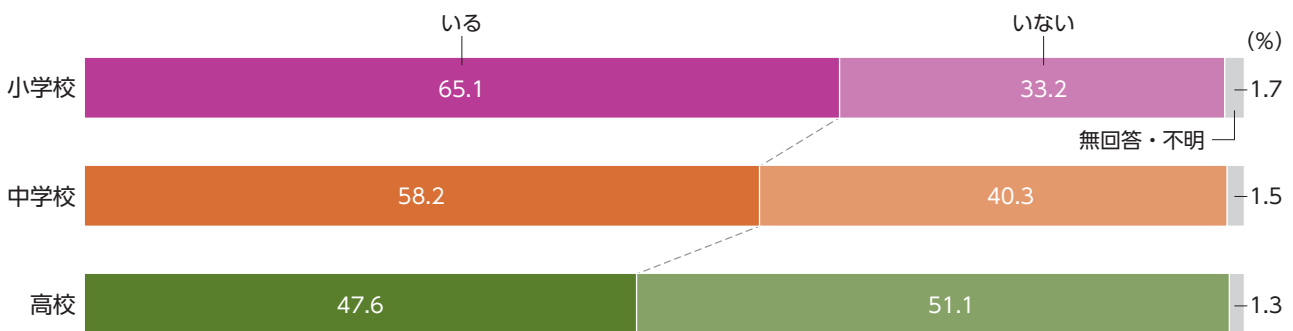
3. 教員のイメージ

ロールモデル(目指したい教員)がいるのは5割弱～6割台。

目指したい教員がいると回答した割合は5割弱～6割台で、高校教員では5割を下回った。具体的には「教科指導力、生活指導力に優れた教員」「子どもへの理解が深く愛情に溢れ、子どもを第一に考える教員」「子どもとのコミュニケーションの取り方や接し方が上手」「授業がわかりやすく上手な教員」「人間としての魅力があり、人をひきつける力がある教員」「向上心を持ち、授業の準備や研究に熱心な教員」などの声が寄せられた。また「仕事と家庭(自分の時間)を上手に両立している教員」をロールモデルにあげる教員もいた。

Q あなたには、ロールモデルとなる(目指したい)教員がいますか。

図3-1 ロールモデルとなる(目指したい)教員の有無



Q それはどのような人ですか。また、どのようなところがロールモデルになっていますか。

【指導力に優れた教員】

厳しいことで子どもたちを律するのではなく、子どもたちへの手立て・指示などの明確さ、人柄の温かさなどで子どもたちのやる気を引き出す方。

(小学校教員)



【子どもへの理解が深い教員】

子どもの目線に立ち、子どもの気持ちや考えを理解した上で、具体的に人生の道標を示していける教員。

(中学校教員)



【子どもとの接し方が上手な教員】

どのような生徒ともしっかりと関係を作る教員。呼吸をできるように生徒に話しかけているところ。

(高校教員)



【授業が上手な教員】

授業の展開において、生徒の実状にあった内容を設定し活気を持って引っ張っていくスタイルが参考にもなり励みにもなる。

(高校教員)



【人間としての魅力がある教員】

1人の人間として相手に優しくしたり、声をかけたり、心配したり、手助けしたり、しっかり意見を言ったり、感じたことを行動に移したり…。たくさんあります。

人間として立派な方が多いです。(小学校教員)



【向上心を持っている教員】

常に新たな課題を見つけ、それを解決していこうという姿勢を持っていた。前を向いて新たなものを取り入れ実践している。

(中学校教員)



【教育に対する信念を持っている教員】

常に子どもにとって何が良いのかを考え、信念をもって教育にたずさわっている先輩の先生方。

(中学校教員)



【仕事とプライベートを両立している教員】

ワーク・ライフ・バランスをとり勤務しながら、常に自己の向上に努めている。

(高校教員)



「学校の先生」とは「子どものためになる」仕事。しかし「責任が重い」「忙しい」「苦勞が多い」仕事でもある。

教員自身に「学校の先生」とはどのような仕事かを尋ねたところ、「子どものためになる」仕事という回答とともに、「責任が重い」「忙しい」「苦勞が多い」仕事という回答が9割台であった（「とてもあてはまる」+「まああてはまる」、以下同様）。これらについては、子どももほぼ同様のイメージを持っている。一方、「みんなから尊敬される」「人気がある」仕事だと思っている教員は1～3割台であるが、子どもの回答では、7割前後が「みんなから尊敬される」仕事、4～6割が「人気がある」仕事だと思っており、意識に差がみられた。

Q 「学校の先生」の仕事とは、どんな仕事だと思いますか。

図3-2 「学校の先生」の仕事のイメージ

